



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社フーバーブレイン 上場取引所 東
コード番号 3927 URL <https://www.fuva-brain.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 輿水 英行
問合せ先責任者 (役職名) 管理部部长 (氏名) 植村 浩之 TEL 03-5210-3061
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		調整後営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	1,879	27.9	86	840.9	35	-	12	-	△8	-
2024年3月期中間期	1,468	31.2	9	△87.4	△4	-	△3	-	△18	-

(注) 1. 包括利益 2025年3月期中間期 △6百万円 (-%) 2024年3月期中間期 △14百万円 (-%)

2. 調整後営業利益=営業利益+M&Aにより生じた無形資産の償却費用及び取引費用+株式報酬費用+その他一時的費用

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△1.61	-
2024年3月期中間期	△3.44	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	5,419	1,394	24.5
2024年3月期	4,352	1,375	30.5

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 1,326百万円 2024年3月期 1,328百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	4,200	36.6	200	296.5
	～ 4,400	～ 43.1	～ 300	～ 494.8

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) 株式会社ARPEGGIO、株式会社クウッドマイナージャパン

(注) 詳細は、添付資料P. 11「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(中間期)

2025年3月期中間期	5,602,200株	2024年3月期	5,600,200株
2025年3月期中間期	382,507株	2024年3月期	396,262株
2025年3月期中間期	5,217,509株	2024年3月期中間期	5,255,038株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(2025年3月期の連結業績予想について)

当社グループが属する業界及び今般の外部環境の変化の速さ並びに当社の展開するグループ戦略を勘案し、レンジ形式にて通期売上高及び調整後営業利益の連結業績予想値を開示しております。経常利益以下の各利益については、当社グループの事業構成の多様化も踏まえた機動的な事業展開を実施する観点から、今後の営業外収益または費用等の適正かつ合理的な数値の見積もりは困難であるため、算出しておりません。

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年5月15日付にて公表いたしました2025年3月期(2024年4月1日～2025年3月31日)の通期連結業績予想を、上方修正いたしました。

詳細は、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、2025年3月期第2四半期(中間期)決算及び通期連結業績予想の上方修正につきまして、当社代表取締役社長輿水英行による説明動画も合わせてご参照ください。

URL : <https://youtu.be/qz4bL7KqXaM>

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記)	11
(セグメント情報等の注記)	12
(重要な後発事象の注記)	13

1. 当中間決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び連結子会社）は、2026年3月期に調整後連結営業利益5億円達成を業績目標（以下、「本業績目標」という。）に掲げ、積極的・戦略的なM&Aを実行し、ワンストップですべてのセキュリティソリューションを提供できる「セキュリティソリューションプラットフォーム」を有する、「ITエンジニア集団」を構築することを事業方針とし、「ITツール事業」及び「ITサービス事業」を展開しております。

当中間連結会計期間において、「ITツール事業」では、2024年1月より販売を開始した「Eye “247” Safety Zone」シリーズを中心に、基盤事業の一つであるセキュリティ製品群の販売実績は概ね計画どおりに進捗いたしました。

同事業の成長事業であるセキュリティ&ネットワークaaS製品「Cato SASE Cloud」では、販売パートナーとともに、順調に受注実績を積み重ねており、前年同期比76.1%増と成長を続けております。2023年12月に共同設立した株式会社フーバー・クロステクノロジーによるサイバーセキュリティサービスの提供に加え、より付加価値の高い提案を行い、さらなる受注拡大に取り組んでおります。

また、2024年1月に国内総代理店として取り扱いを開始したNDR(Network Detection and Response)ソリューション製品「Network Blackbox」では、提供元である株式会社クラウドマイナーージャパン（以下、「クラウドマイナーージャパン」という。）に対する出資を同年4月15日付で実施し、持分法適用会社として当社グループに向け、「Network Blackbox」の販売活動を本格化させております。「Cato SASE Cloud」同様、当社グループの新たな成長事業となるよう、クラウドマイナーージャパンと共に取り組んでまいります。

「ITツール事業」2つ目の成長事業である働き方改革製品「Eye “247” Work Smart Cloud」については、デジタルマーケティングによる直接販売が概ね想定どおりに推移し、着実に売上高を積み上げております。「ヒトセキュリティ」コンセプトの新たな機能追加に着手し、付加価値向上による継続率向上及び導入企業増加に取り組んでまいります。生産性向上や働き方改革支援と並行して、内部不正対策切り口のアプローチにより、大企業からの問い合わせも増加しております。

「ITサービス事業」においては、GHインテグレーション株式会社（以下、「GHI」という。）及び2024年2月に子会社化した株式会社CONVICTION（以下、「CONVICTION」という。）が抱えるIT人材への需要は依然と高く、計画どおりの進捗となっております。GHIにおいては、共同株主である伊藤忠テクノソリューションズ株式会社とも協力して、IT人材の需要が継続して高い、開発案件やネットワークインフラ、データセンター関連プロジェクト等のさらなる案件獲得に取り組んでおります。CONVICTIONにおいても、グループ会社のネットワークを介した案件獲得に取り組んでおります。

2024年9月30日付で、IT人材育成に強みをもつ株式会社ARPEGGIO（以下、「ARPEGGIO」という。）の株式を取得し、新たに子会社としました。また、2024年9月30日及び2024年10月15日付でフリーランスのIT人材事業も手掛けるイチアール株式会社（以下、「イチアール」という。）の株式を取得し、新たに子会社とし、両社が2024年10月以降にグループ業績に貢献いたします。

採用支援・人材紹介を提供する連結子会社株式会社アド・トップ（以下、「アド・トップ」という。）においては、前連結会計年度における黒字体質への転換をそのままに、当中間連結会計期間においても、利益貢献を実現しております。今後は、アド・トップの既存クライアント企業へ当社働き方改革製品及び「FB SAT」シリーズの提供などグループ間での営業機会を創出し、さらなる売上高拡大に取り組んでまいります。

「ITツール事業」及び「ITサービス事業」のほか、2023年7月に設立した投資専門子会社フーバー・インベストメント株式会社（以下、「フーバー・インベストメント」という。）による投資事業では、2024年4月15日付で、NDRソリューション製品「Network Blackbox」の開発元であり、クラウドマイナーージャパンの親会社であるQuad Miners Co., Ltd.（クラウドマイナー）に出資いたしました。Quad Miners Co., Ltd.は、韓国での株式上場を計画しており、今後のさらなる企業価値向上が期待され、それに伴うキャピタルゲインを見込んでおります。また、2024年7月17日付で、日本ブランドの海外流通を最大化させるCloud型海外販売システム“bamb”を運営するアジアンブリッジ株式会社の第三者割当増資を引き受けております。フーバー・インベストメントは今後も、当社グループの成長に貢献しうる企業の調査・検討に加え、企業価値向上によるキャピタルゲインの獲得が見込める企業への純投資を積極的に行ってまいります。

以上の取り組みの結果、当中間連結会計期間の売上高は1,879,081千円（前年同期比27.9%増）となりました。売上構成の変化による粗利率の低下はあるものの、販売費及び一般管理費の適正化に取り組み、営業利益は35,376千円（前年同期は営業損失4,709千円）となりました。経常損益については、外貨建債権債務等に係る為替差損11,199千円及び持分法による投資損失14,486千円を計上したことにより、経常利益12,227千円（前年同期は経常損失3,463千円）となりました。親会社株主に帰属する中間純損益は、法人税等合計15,119千円、非支配株主に帰属する中間純利益5,521千円により、親会社株主に帰属する中間純損失8,413千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失18,121千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ITツール事業）

当中間連結会計期間の売上高は1,134,942千円（前年同期比34.6%増）、セグメント利益は114,726千円（前年同期比40.3%増）となりました。

（ITサービス事業）

当中間連結会計期間の売上高は744,138千円（前年同期比18.9%増）、セグメント利益は94,370千円（前年同期比75.9%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。

（資産）

当中間連結会計期間末における資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ1,067,824千円増加し、5,419,975千円となりました。これは主に、営業投資有価証券が112,917千円、前払費用が369,505千円及び長期前払費用が384,304千円それぞれ増加したことによるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計の額は、前連結会計年度末に比べ1,048,618千円増加し、4,025,504千円となりました。これは主に、前受金が393,597千円、長期前受金330,378千円及び長期借入金が274,744千円それぞれ増加したことによるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ19,205千円増加し、1,394,470千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純損失8,413千円を計上する一方、自己株式の処分による自己株式処分差益等により資本剰余金が6,181千円増加し、自己株式が3,800千円減少したことに加えARPEGGIOの子会社化等により、非支配株主持分が21,190千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ136,173千円減少し、1,267,825千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、157,763千円の支出（前年同期は23,598千円の支出）となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益12,227千円を計上し、前受金が723,975千円増加する一方、営業投資有価証券が112,917千円及び前払費用が752,310千円増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、308,211千円の支出（前年同期は4,587千円の支出）となりました。主な要因は、投資有価証券の取得による支出271,765千円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出70,928千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、329,759千円の獲得（前年同期は109,579千円の支出）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入350,000千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年5月15日付に公表いたしました2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）の通期連結業績予想（以下、「前回発表予想」という。）を、下記のとおり上方修正することとしました。

2025年3月期の連結業績予想数値の修正（2024年4月1日～2025年3月31日）

（百万円）

	売上高	調整後営業利益
前回発表予想（A）	3,800～4,100	150～250
今回修正予想（B）	4,200～4,400	200～300
増減額（B-A）	400～300	50～50
増減率（%）	10.5～7.3	33.3～20.0
前期実績（2024年3月期）	3,075	50

当中間連結会計期間において、各セグメント業績が順調に推移し、特にITツール事業のSaaS型サービスであるセキュリティ&ネットワークaaS製品「Cato SASE Cloud」が9億円の新規受注を獲得し、2024年10月以降の増収見込みが高まりました。同じくSaaS型サービスである働き方改革製品「Eye “247” Work Smart Cloud」についても、大型受注を獲得し、2024年10月以降の増収見込みが高まりました。

ITサービス事業においては、2024年9月30日付でIT人材育成及び採用ノウハウを有するARPEGGIOの株式を取得し、新たに子会社化いたしました。また、2024年10月15日付で、事業運営の自動化及びITフリーランス事業も手掛けるイチアールの子会社化を完了し、両社が2024年10月以降に業績貢献いたします。

上記のとおり、増収見込みが高まったことにより、調整後営業利益についても、増益が見込めることとなりました。これらの要因を反映し2025年3月期通期連結業績予想を上方修正いたします。

2025年3月期第2四半期（中間期）決算及び通期連結業績予想の上方修正につきまして、当社代表取締役社長興水英行による説明動画も合わせてご参照ください。

URL : <https://youtu.be/qz4bL7KqXaM>

（注）上記の通期連結業績予想は、本日現在、入手可能な情報に基づき判断並びに予想したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,403,999	1,267,825
受取手形及び売掛金	343,837	314,958
営業投資有価証券	30,000	142,917
原材料及び貯蔵品	29,610	46,619
短期貸付金	50,000	50,200
前払費用	720,691	1,090,196
その他	7,096	4,258
貸倒引当金	△905	△851
流動資産合計	2,584,328	2,916,124
固定資産		
有形固定資産	21,119	19,319
無形固定資産		
のれん	246,029	323,069
その他	13,393	14,779
無形固定資産合計	259,422	337,848
投資その他の資産		
長期前払費用	1,181,699	1,566,004
その他	305,581	580,677
投資その他の資産合計	1,487,280	2,146,682
固定資産合計	1,767,822	2,503,850
資産合計	4,352,150	5,419,975

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	143,571	72,976
1年内返済予定の長期借入金	19,500	89,016
前受金	929,038	1,322,635
未払法人税等	11,954	41,789
引当金	6,090	16,490
その他	210,011	177,191
流動負債合計	1,320,165	1,720,098
固定負債		
長期借入金	48,000	322,744
退職給付に係る負債	34,849	28,943
資産除去債務	20,397	20,446
長期前受金	1,517,772	1,848,150
その他	35,699	85,120
固定負債合計	1,656,719	2,305,405
負債合計	2,976,885	4,025,504
純資産の部		
株主資本		
資本金	796,631	796,756
資本剰余金	594,840	601,021
利益剰余金	39,206	30,792
自己株式	△110,218	△106,418
株主資本合計	1,320,459	1,322,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,350	4,755
繰延ヘッジ損益	1,752	△572
その他の包括利益累計額合計	8,103	4,183
新株予約権	10,025	10,268
非支配株主持分	36,676	57,866
純資産合計	1,375,265	1,394,470
負債純資産合計	4,352,150	5,419,975

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	1,468,780	1,879,081
売上原価	968,591	1,291,343
売上総利益	500,188	587,737
販売費及び一般管理費	504,898	552,360
営業利益又は営業損失(△)	△4,709	35,376
営業外収益		
受取利息及び配当金	11	832
為替差益	4,556	-
助成金収入	-	1,713
保険解約返戻金	-	1,688
その他	227	713
営業外収益合計	4,795	4,947
営業外費用		
支払利息	107	410
為替差損	-	11,199
自己株式取得費用	2,133	-
持分法による投資損失	-	14,486
創立費償却	857	-
その他	450	2,000
営業外費用合計	3,548	28,096
経常利益又は経常損失(△)	△3,463	12,227
特別利益		
新株予約権戻入益	188	-
特別利益合計	188	-
特別損失		
特別退職金	5,636	-
特別損失合計	5,636	-
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△8,912	12,227
法人税、住民税及び事業税	7,332	17,266
法人税等調整額	1,644	△2,146
法人税等合計	8,977	15,119
中間純損失(△)	△17,889	△2,891
非支配株主に帰属する中間純利益	231	5,521
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△18,121	△8,413

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失 (△)	△17,889	△2,891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,511	△1,638
繰延ヘッジ損益	439	△2,325
その他の包括利益合計	2,950	△3,963
中間包括利益	△14,939	△6,855
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△15,198	△12,333
非支配株主に係る中間包括利益	259	5,477

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△8,912	12,227
減価償却費	6,956	5,558
のれん償却額	11,812	15,320
貸倒引当金の増減額(△は減少)	665	△53
賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,690	11,440
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	510	△1,040
受取利息及び受取配当金	△11	△832
助成金収入	-	△1,713
保険解約返戻金	-	△1,688
新株予約権戻入益	△188	-
持分法による投資損益(△は益)	-	14,486
支払利息	107	410
為替差損益(△は益)	△10,276	△40
自己株式取得費用	2,133	-
特別退職金	5,636	-
売上債権の増減額(△は増加)	39,399	68,430
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	-	△112,917
棚卸資産の増減額(△は増加)	29,682	△17,009
前払費用の増減額(△は増加)	△833,796	△752,310
仕入債務の増減額(△は減少)	△953	△70,660
未払金の増減額(△は減少)	13,756	△25,740
前受金の増減額(△は減少)	738,350	723,975
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,636	△12,864
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,386	△5,905
その他	12,853	△3,339
小計	△4,213	△154,268
利息の受取額	10	831
利息の支払額	△107	△410
法人税等の支払額	△13,650	△5,629
助成金の受取額	-	1,713
特別退職金の支払額	△5,636	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△23,598	△157,763

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付けによる支出	-	△200
有形固定資産の取得による支出	△3,250	△951
無形固定資産の取得による支出	△140	-
投資有価証券の取得による支出	-	△271,765
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	-	△20,000
敷金及び保証金の差入による支出	△110	△929
保険積立金の積立による支出	△1,086	△1,086
保険積立金の解約による収入	-	7,649
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△70,928
その他	-	50,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,587	△308,211
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	-	△9,990
長期借入れによる収入	-	350,000
長期借入金の返済による支出	△7,500	△10,500
自己株式の取得による支出	△102,079	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	250
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109,579	329,759
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,276	40
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△127,489	△136,173
現金及び現金同等物の期首残高	1,415,633	1,403,999
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,288,144	1,267,825

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記）

（1）連結の範囲の重要な変更

当中間連結会計期間において、株式会社ARPEGGIOの株式を取得し、子会社としたことにより、同社を連結の範囲に含めております。なお、2024年9月30日付で株式を取得したため、当中間連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

（2）持分法適用の範囲の重要な変更

当中間連結会計期間において、2024年4月15日付で株式会社クラウドマイナー日本の株式を取得し、同社を持分法適用の範囲に含めております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間連結損 益計算書計 上額 (注3)
	ITツール 事業	ITサービス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	843,045	625,734	1,468,780	-	1,468,780	-	1,468,780
セグメント間の内部売 上高又は振替高	168	23,969	24,137	900	25,037	△25,037	-
計	843,213	649,704	1,492,917	900	1,493,817	△25,037	1,468,780
セグメント利益	81,744	53,659	135,403	595	135,999	△140,709	△4,709

- (注) 1. 当中間連結会計期間において、フーバー・インベストメント株式会社を新たに設立し事業を開始したことから、同社の投資事業を報告セグメントに含まれない「その他」に区分しております。
2. セグメント利益の調整額△140,709千円には、のれんの償却額△8,525千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△132,183千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間連結損 益計算書計 上額 (注3)
	ITツール 事業	ITサービス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,134,942	744,138	1,879,081	-	1,879,081	-	1,879,081
セグメント間の内部売 上高又は振替高	116	12,142	12,258	1,800	14,058	△14,058	-
計	1,135,058	756,281	1,891,340	1,800	1,893,140	△14,058	1,879,081
セグメント利益	114,726	94,370	209,096	252	209,349	△173,972	35,376

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない投資事業であります。
2. セグメント利益の調整額△173,972千円には、のれんの償却額△8,525千円、一時的に発生する子会社取得関連費用△33,422千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△132,023千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当中間連結会計期間において、株式会社ARPEGGIOを連結の範囲に含めたことに伴い、ITサービス事業の資産として、のれんが84,433千円増加しております。なお、当中間連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、のれんは暫定的に算定された金額であります。

（重要な後発事象の注記）

（子会社取得）

当社は、2024年9月30日の取締役会決議及び同日付で締結した株式譲渡契約に基づき、2024年10月15日付でイチアール株式会社の株式取得を完了し、同社を連結子会社といたしました。